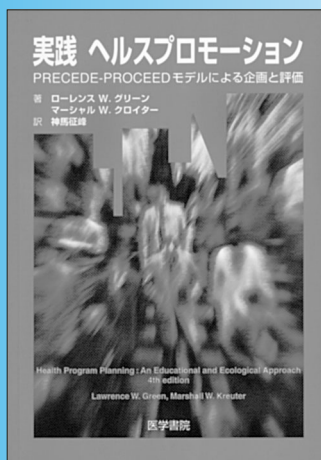


活動も評価も“前進！”進化した PRECEDE-PROCEED モデルが役に立つ

【評者】村中峯子 全国保健センター連合会連合会企画部

実践
ヘルスプロモーション
PRECEDE-PROCEEDモデルによる企画と評価
ローレンスW・グリーン／マーシャルW・クローター（著）
神馬征峰（訳）



定価 4,830 円（本体 4,600 円＋税 5%）
B5判，380 ページ
医学書院（Tel.03-3817-5657）

「モデルチェンジでシャープになった新車みたい！」。手にした瞬間，そう直感した。本書はローレンス・グリーン氏著「ヘルスプロモーション・PRECEDE-PROCEED モデルによる活動の展開」の第4版邦訳書である。ちなみに「活動の展開」の原著は1991年に出版されており，当時，すでに第2版であった。本理論が実践と研究の積み重ねによって確実に，日々，刻々と進化していることに驚きを禁じ得ない。

さて，先の第2版と本書を見比べると，まず，装丁からして求心的な気配を漂わせている。次に，とにかく読みやすい。読み進むなかで，著者や訳者と対話しているような感覚すら覚える。恥を忍んで告白すると，私にとって第2版の読解は困難を極めた。直感的に納得できるかどうか勝負だった当時の私には，ポンと膝打つ感を覚えにくかったのだ。

ところが，本書は“保健プログラムを企画・評価するときの，教育的・エコロジカル的アプローチ”の書籍として，方位の定まった感がある。原題では「ヘルスプロモーション」の文字が消えているものの，邦題で「実践・ヘルスプロモーション」としているのは，親しみやすさをねらったためであろう。それでも原題の意図は遺憾なく発揮され，明確に質の確保としての評価を各段階に組み込んだ保健活動企画のためのテキストとなっている。章の冒頭ではアルゴリズムを提示し，知りたいところを確認しながら読める工夫がなされている。これは画期的だ。

ほかにも進化が随所に見て取れる。たとえば，PRECEDE-PROCEED モデル図。第2段階のアセスメントにおいて，「行動とライフスタイル」「環境」と並んで「遺伝」が明確に記された。人間の健康において，複雑な生態系や環境要因の影響を軽視することはできないと強調し，根拠も追記している。

実践的な事例と優れた研究の引用も豊富であり，理論が実践に添い，実践がその理論を十分に発展させ，読み物としてもおもしろい。意欲が湧いてくるし，ポンポンと膝を打ちっぱなしになりそうだが，敢えて難をさがせば，日本の有用な実践の引用のないところが残念ではある。ちなみに，本版から補助教材として本モデルのWebサイトを利用できるようになった。当然，サイトは全て英文であり，申し訳程度に拾い読みをして私はサイトからすずすと退散した。なおさら，原著発行からほぼ1年で本書を邦訳し，我々の手許に届けてくれた神馬征峰氏の貴重な労苦に心から感謝したい。

蛇足だが本書は，職場内での詳読会（勉強会）テキストとしても適している。現場にいたころは，先輩がそうした機会を設けてくれた。議論を交わし，草ごとに設けられた演習課題を考えることで，実践力を高めていけそうなのである。ということで，近々，勉強会を職場内で開催してみようと企てている。モデルチェンジのようであって，PRECEDE-PROCEED モデルの変わらない基盤と本質は「参加」である。まず，本書を手に取り「参加（読む）」することで，「一歩前進できる」。そう確信できる本である。